

建築設計製図Ⅰ 第二課題 「陶器の森美術館」

2010/11/11 出題：松本直司 夏目欣昇

1. 課題の概要

「陶器の森」として親しまれることを企図した美術館を鶴舞公園に隣接する敷地に設計してください。

美術館は建築と社会の問題が見え隠れする場所であり、かつ、今後のあるべき姿を示す場所であるといえます。まずは、敷地の周辺環境および現代日本の美術館が抱える問題について調査し、そこから得た見識をいかして美術館建築を提案してください。

建築と景観のあり方について、および、陶芸品の展示の仕方について、熟考した提案を求めます。あなたが育んだ自由な発想を建築に昇華させること、すなわち、設計力を養うことがこの課題の目標です。

2. 設計条件

(1) 【敷地】名古屋市昭和区鶴舞公園に補助幹線道路(約16m)を挟んで面する所定敷地に新築する。

- ・東西方向約50m×南北方向約50m(3頁の図参照)。
- ・現在ある建物は撤去する。
- ・地盤は良好、インフラ設備は完備している。
- ・敷地の高低差は無視して良い。

(2) 【規模】地上2階建て。延べ面積1,200㎡程度。

- ・必要ならば、地上3階、地下1階を設けてもよい。

(3) 【構造】鉄筋コンクリート造を主とする。

(4) 【展示品・収蔵品】中京圏にゆかりのある陶芸品(陶磁器・焼き物)を主とする。

(5) 【所要諸室等】

1) 室内

展示部門(約20%)：常設展示室、企画展示室、レファレンス兼休憩スペース

研究・収蔵部門(約20%)：学芸員室、研究諸室、収蔵庫、燻蒸室、収蔵関連諸室

管理部門(約10%)：事務室、管理諸室、会議室

共用部門(約30%)：ロビー、受付、通路、階段、トイレ、倉庫

普及部門(約15%)：カフェ、ミュージアムショップ。

※研修室等を設けても良い。

機械設備部門(約5%)：空調機械室、電気室、衛生設備室。

※必要に応じて屋外設備スペースを設けること。

2) 屋外

屋外展示スペース：200㎡以上。

オープンスペース(団体客対応など)：適宜。

緑地：適宜。

遊歩道：敷地内の南端付近に設けることが望ましい。

搬出入スペース：トラックが寄り付けるスペースを確保すること。

駐車スペース：5～10台分程度(身障者対応含む)。

駐輪スペース：20台分以上。

その他：ゴミ置き場など。

3) 補足

周辺環境との調和に留意すること。

建築可能な建物とすること(建築関連法令を大きく逸脱しなければよい)。

あらゆる人が鑑賞できるようにデザインすること。

上記所要諸室等の条件は、施設上問題のない範囲で改変してもよい。

3. 提出物等

(1) 【エスキスチェック】

1) 提出物

エスキス図・文（A3サイズ程度の用紙。枚数・表現方法は自由）。

2) チェック内容

- 1) エスキスチェック1：諸環境調査（現地調査および美術館施設調査）・コンセプト
※環境・施設・展示について計画の方向性を提起。
- 2) エスキスチェック2：敷地環境計画・施設機能計画・展示計画
※プログラム・設計条件を整理。
- 3) エスキスチェック3：総合計画、詳細計画、構造・設備計画
※デザインをディベロップメント。
- 4) エスキスチェック4：最終調整
※提出イメージ等をスタディ。

(2) 【中間発表】

1) 提出物

パワーポイントのデータ（シート数は自由。大きな図・文字で表すこと）。

2) 発表内容

諸環境調査をふまえて、以下の4点について発表を課す。

- 1) 設計趣旨（コンセプト）
- 2) 敷地環境計画
- 3) 施設機能計画
- 4) 展示計画

3) 発表方法

パワーポイント使用。発表：2分・質疑：1分。

(3) 【最終提出・講評】

1) 提出物

設計図（A1サイズ用紙。枚数・表現方法は自由）および模型。

2) 提出内容

(1) 設計図

- 1) 設計趣旨およびタイトル（テーマ）
400～600文字で設計意図を簡潔に述べること。
提案の特徴をよく伝えるタイトルを付すこと。
- 2) 施設ガイド：施設内容を分かりやすく図式化。中間発表資料の内容をもとにして表現すること。有料エリアと無料エリアを示すこと（室内、屋外ともに）。
- 3) 配置図：1/300。前面道路、周辺環境を示すこと。アプローチ経路が分かるようにすること。
- 4) 平面図：1/100。各階。展示品、家具等を記入すること。1階平面図には外構計画を含めて表現すること（隣地・道路まで表現）。
- 5) 立面図：1/100。2面以上。隣地の環境まで表現すること。
- 6) 断面図：1/100。1面以上。内外の立体的構成がよく分かる箇所を選択すること。
- 7) 透視図：内観、外観。ともに1面以上。模型写真でもよい。

8) 補足

学生番号・氏名・図面番号は、紙面オモテの右下に記入すること。
方位、縮尺、断面指示線、寸法線など、基本的な設計記号を忘れずに記入すること。
設計図縮尺は、表現上の必要に応じて変更してもよいが、見にくい場合は減点対象となる。

(2) 模型

縮尺は自由。

学生番号・氏名を記入。

3) 講評方法

提出物を用いた発表・質疑応答形式。

4. 日程

11/11 (木) 課題説明・レクチャー (松本先生) 場所: A 1 (2421) 教室
 11/16 (火)
 11/18 (木) エスキスチェック 1 場所: 4Fアトリまたはデザインスタジオ～工大祭前日～
 11/23 (火) ～祝日～
 11/25 (木) エスキスチェック 2 場所: 4Fアトリまたはデザインスタジオ
 11/30 (火) 【中間発表】 場所: K 2 (0113) 教室
 12/02 (木) エスキスチェック 3 場所: デザインスタジオまたはF 2 (0212) 教室
 12/07 (火)
 12/09 (木) エスキスチェック 4 場所: デザインスタジオまたはF 2 (0212) 教室
 12/14 (火)

印刷: 12/14夜～16早朝 (予定)

12/16 (木) 【提出】 (12:10～12:40) 【講評会】 (13:00～) 場所: A 1 (2421) 教室

12/21 (火) ～卒論審査会～

※空欄日はフリーチェックを行う。中間発表・講評会は延長授業となる場合がある。

5. 評価基準

設計図の表現 (作図精度・視認性・審美性)、
 設計意図および建物の的確性 (機能構成・環境配慮・空間イメージ) を重視して評価する。

6. ティーチング・アシスタント (TA) 石川翔一 (松本研・M1)、山本哲也 (松本研・M1)



7. その他

(1) 課題の背景

- 1) 美術・工芸とは何か？そして、建築とは何か？作り手から使い手（鑑賞者）まで、各人各様な切り口から意味が与えられるだろう。あらゆる状況、気付きを提案に込めることが望まれる。

(1) 美術館という制度

日本における美術館制度は、元来は博物館法（1951年施行）に規定されるものである。一般的には、「美術館」と認知されるものには類似施設も含めることが多い。

法の理念および社会通念に基づくならば、美術館という制度には、教育と文化の発展への貢献が第一義として求められる。そして、その建築には、その意義を達成するための、具体的な機能および計画・空間が期待されている。

(2) 継承と変容が要求される美術館

近代からの美術館の変遷を概観すると、MoMA（ニューヨーク近代美術館）の創設（1929年）とその後の活動は、美術館建築の転換を象徴する出来事であることがとわかる（そもそも美術館とは極めて近代的な制度である）。

それまでの美術館は、市民社会の文化資産を収蔵し、一般に公開することが主目的（大博物館の制度）であった。それに対して、MoMAでは、ホワイトキューブと呼ばれる展示空間（ニュートラル、無場所的な空間）の提供と企画展示という、近代芸術（美術館に展示されることを念頭に制作される作品）を価値付けする新しいシステムが実践された。スタンダードの地位を獲得したこの仕組みの影響は、美術体系の再編、作品の自立性、専用美術館建築の要請などへとつながる。

その後は、美術館に納まらない作品への志向、コンテキスト（場所性）の回復を標榜する作品および美術館の模索、アートイベントの活況などの展開がみられるようになる。いずれも「ホワイトキューブへの反動」と解釈できるだろう。

こういった美術の今日的状況は「美術」の継承と変容によりもたらされているのである。

(3) 用強美を具現化する工芸品

日本の陶磁器の歴史は、縄文草創期にまでさかのぼるものであり、その後の発展からみても日本の歴史そのものといえる。

その中でも、桃山時代をピークとする茶陶（約400年前）、欧米にジャポニズム・ブームを引き起こした輸出工芸（約150年前）、芸術性を追求する工芸家の登場（約100年前）が注目される。

このように、日用品からはじまり、骨董的価値を見出され、美術的地位を獲得していく概貌だけ見ても、日本における陶磁器の価値付けの変動がわかる。

また、現代まで続く作陶の展開をみると、生活観、自然観の希薄化は明白であり、作品としての陶磁器のあり方を一口に捉えて扱うことはできない。

(4) 名古屋近代化を象徴する鶴舞公園

鶴舞公園は、1909年に開園された名古屋で最初の都市公園であり、第10回関西府県連合共進会・博覧会（1910年）が開催された。

話はそれだが、明治～大正期の博覧会とは、殖産興業・文化政策の一環として展開されたものであり、そのために集められた陳列品が、日本における初期の博物館を形成し、美術館が整備される契機となっている。

その後も、近代都市名古屋のハレの空間として鶴舞公園は整備され、各種イベントが開催される。戦中に主要施設を焼失するなどの紆余曲折を経て、現在、公会堂、図書館、奏楽堂を備える名古屋で指折りの都市公園として威風を維持している。

一方、鶴舞公園内の、中規模ホール・会議室を備える愛知県勤労会館は、今後の活用が不透明なまま2010年3月で閉館した。

- 2) 文化施設の公的運営・管理について改革を進めつつ、市民に良質の文化的企画を提供することが強く期待される現代において、社会を色濃く映し出す美術館とはどのようなものか？

まずは、各々の目線から考えはじめること。そして、具体的な展示作品を想定し、検討することをすすめる。

作品と鑑賞のあり方を考え抜いた空間を提示して欲しい。思索する範囲は、建物（内部）に留まるものではなく、敷地全体（外部）、ひいては、地区環境にまで及ぶべきであるだろう。また、情報化への配慮も必要かもしれない。美術館のいまを表現する建築を期待する。

(2) 参考事例 国内

1) 私立

- (1) 谷村美術館 新潟県 2009年閉館
設計：村野藤吾 完成：1983年。私立。澤田政廣の彫刻を展示。
- (2) 細見美術館 京都府
設計：大江匡 完成：1998年。財団法人。細見家の蒐集品を展示。
- (3) 三鷹の森ジブリ美術館
設計：日本設計 完成：2001年。財団法人。アニメーションに関する展示。
- (4) 地中美術館
設計：安藤忠雄建築研究所 完成：2004年。財団法人。サイトスペシフィックアートの展示。
- (5) 根津美術館
設計：隈研吾（新本館） 完成：2009年。市立。根津嘉一郎の収集品を展示。

2) 市立・町立

- (1) 伊豆の長八美術館
設計：石山修武+ダムダン空間工作所 完成：1984年。町立。名工・入江長八の漆喰細工を展示。
- (2) 奈義町現代美術館
設計：磯崎新 完成：1994年。町立。現代アートの恒久展示がメイン。
- (3) 金沢21世紀美術館
設計：SANAA 完成：2004年。市立。現代美術を主とした展示。
- (4) 富弘美術館
設計：ヨコミゾマコト 完成：2005年。村立。星野富弘の詩画を展示。
- (5) 横須賀美術館
設計：山本理顕設計工場 完成：2007年。市立。周辺環境と一体化した美術館を目指す。

(3) 参考事例 海外

1) 第0世代

- (1) ムセイオン：古代ギリシアの学術・研究機関
- (2) キリスト教大聖堂、教会堂：聖遺物・献納品の展示
- (3) キャビネット オブ キュリオシティーズ、ステュディオオーロ、ヴンダーカンマー：王室・貴族邸宅内の陳列室

2) 第1世代

- (1) ルーブル美術館・パリ
- (2) エルミタージュ美術館・サンクトペテルブルク
- (3) 大英博物館・ロンドン
- (4) メトロポリタン美術館・ニューヨークシティ

3) 第2世代

- (1) ニューヨーク近代美術館MoMA・ニューヨークシティ
- (2) ベルリン新国立美術館・ベルリン
- (3) グッゲンハイム美術館・ニューヨークシティ
- (4) キンベル美術館・フォートワース
- (5) ポンピドゥーセンター・パリ

4) 第3世代

- (1) グッゲンハイム美術館・ビルバオ
- (2) テート・モダン・ロンドン

(4) 建築製図通則 (JIS A 0150)

内容を確認すること。特に、表示の一般原則—線の基本原則 (JIS Z 8312:1999)、および、図形の表し方の原則 (JIS Z 8316:1999) を理解しておくこと。

(5) 基盤地図情報ダウンロードサービス (国土地理院)

<http://www.gsi.go.jp/kiban/> ※変換ソフトによりDXF形式のデータを取得可能。

(6) 備考

自作品の制作に際しては、他の権利（著作権）に配慮すること（今後、作品展等へ応募予定がある場合は特に注意）。

優秀作品については、教育・研究に関連して発表等を依頼する場合がある。